

議事録（概要版）

会議名	令和6年度（2024年度）奈良県農村活性化推進委員会
議 題	<p>協議事項</p> <p>※昨年度（令和5年度）の振り返り</p> <p>（1）農村資源を活用した地域づくり ・実施状況及び実施予定について</p> <p>（2）中山間地域等直接支払制度 ・実施状況について ・中山間地農業推進対策（農村RMOモデル形成支援）について</p> <p>（3）多面的機能支払制度 ・実施状況について ・事務負担等の課題に関するアンケート結果について</p> <p>（4）表彰制度 ・表彰制度の選定について</p> <p>（5）その他</p>
日 時	令和6年（2024年）10月30日（水） 14:30 ～ 16:30（終了16:43）
場 所	一般社団法人 奈良県経済倶楽部 3F 小会議室（奈良市東向中町6番地）
主席者	中村公人（委員長）、谷口直子（副委員長）、大石卓史（委員）、 奥西武史（委員）、河本大地（委員）、東出加奈子（委員）
事務局	奈良県食農部農村振興課 外園俊夫課長、藤田浩之主幹、中村正敏主任調整員
	高松元紀主任主事、岡元勇人主事
	小寺徹（北部農業振興事務所：主幹）、要川湧野（中部農林振興事務所：主事）、
	山本拓次（東部農林振興事務所：係長）、松井英紀（南部農林振興事務所：副主幹）、
	萩原敏広（南部農林振興事務所：主任主査）
傍 聴	無し（0名）

1 協議事項

※ 昨年度（令和5年度）の振り返り

【主な質疑・意見】	【応答など】
① SNSによる情報発信の弱さ及び地域づくり活動のPRが不十分であるというご意見について	① 開催広域連合に全面加盟（R6.4.1） 広域産業振興農林水産部のHP活用・掲載（様々な取組の情報発信）
② 優良事例ではなくて、集落の抱えている課題の確認が必要なのでは	② 各組織の課題である後継者不足について、多面的機能支払の活動組織代表者等を対象とした「R5リーダー研修」を実施
③ 活動組織の役員等の高齢化が特に進んでいるという課題への対応について	③ 事務作業の負担について、アンケート調査を基に今年度外部委託の検証を実施中
④ 大学間連携の取り組みについて、奈良県も可能	④ 先進県である兵庫県の取組を確認した

かとの意見について

が、奈良県では兵庫県のような取組にはまだ至っていない。奈良市の大柳生地域では、市内の小学生とか保護者を対象に、大学の教授や自然博物館の学芸員を招き自然観察会を実施。このような取組を他の組織にも積極的に情報発信していきたい。

(1) 農村資源を活用した地域づくり

【主な質疑・意見】	【応答など】
<p>① (河本委員) 農村地域づくり協議会の研修会・情報交換会について、会員以外でも興味を持つ人はいると思うが参加対象はどうされているのか。地域によっては、外に向けて発信し、色々な方に関わって欲しいとの意見もある</p> <p>② (大石委員) 農村地域づくり協議会の活動内容等について、県独自の施策なのか。国施策との重なり具合とかについて教えていただきたい</p> <p>③ 都市住民へのPRについては、取組ごとにターゲットを決めてアプローチしていくような進め方が必要。また、農村地域づくり協議会会員の地区は、県北～中部の地域が多いように思う。南部地域に働きかけを行うのも一考ではないか</p> <p>④ (奥西委員) 奈良県生協連では、食糧安全保障に関して問題意識を持っており、組合員を対象とした奈良県コンベンションセンターでイベント(マルシェ)を企画。地域づくりの会員さんも自慢の商品を持ってきて貰えば良い交流が出来ると思う</p> <p>⑤ 生協では、吉野南部の地域で吉野共生プロジェクトという取り組みを行っている。都市と山間の交流ができれば、県南部に、奈良市や大和郡山市、香芝市の北の方々が南部の方に、来てもらい、地域のよさ、地域の農産物のよさを知ってもらい、交流が生まれる考えになる。具体的にどのようなしていくのかなかなか進んでいない状況。さらに進めたいとおもっており、連携をお願いしたい。</p>	<p>① 会員の活動の質的向上や会員間の連携を深めることを目的に実施してきたため外部からの参加は今のところ考えていなかったが、今後は検討していきたい</p> <p>② 独自の施策であり、農業農村整備事業の実施でまとまりが出来て取り組んだ地区や多面的機能支払交付金が土台となって発展した地区もある</p> <p>③ (大石委員意見)</p> <p>④ ぜひとも連携できたらと思う。会員には声がけする</p> <p>⑤ (奥西委員意見)</p>

<p>⑥ 吉野が荒廃すると、重要な文化や伝統、さらに産業もなくなってしまう、県の大事な森と水が、駄目になる。そのことを大事にすることが、安全安心な食、食と文化を守ることに繋がると思う</p> <p>⑦ (谷口委員) 関西広域連合のスタンプラリーについて、ほとんどが和歌山県である。次回は奈良県が半分くらいになるような気持ちで取り組んで頂きたい。また、行政からの声かけは難しいと思うので、例えば商工会とかと連携すれば良いと思う</p> <p>⑧ (東出委員) 農村地域づくり協議会の会員の体験や活動内容の参加者はどういう方か</p> <p>⑨ 地域の活性化は地域の方と密着する活性化もあれば、外部から来てもらって情報発信していく活性化もある</p> <p>⑩ 都市住民とかインバウンドの方々を戦略的に、中山間直接支払とかと違った仕組みで実施しているところを活かして広げていっていただきたい。</p>	<p>⑥ (奥西委員意見)</p> <p>⑦ スタンプラリーについては、来年も続くと聞いている。来年は早いうちから動きだしたい</p> <p>⑧ 集落内の非農家や地域内の企業への声掛けして社員や家族連れで参加している地区もある。また、SNSを活用して大阪方面から参加される地区もある</p> <p>⑨ (東出委員意見)</p> <p>⑩ (中村委員長)</p>
--	--

(2) 中山間地域等直接支払制度

【主な質疑・意見】	【応答など】
<p>① (谷口委員) 取組について市町村間の交付金でバラツキがある。何が原因なのか</p> <p>② (大石委員) 来年度から大きく仕組みが変わり、地域戦略が必須となるが、地域計画の見通しはどうか</p> <p>③ 奈良県のRMOの事例(葛城市の山麓地域棚田振興協議会)は、旧小学校区単位でなく、広域的で範囲が大きく全国の想定(旧小学校単位)と異なる形と思われるため、奈良県に拘らず、他県でこんなパターンがあるというのを示した方が良い。その方が市町村もわかりやすい</p>	<p>① 市町村の体制が大きい。市町村職員の確認作業が大きいいため、地元の書類作成にあたりサポートするような人材を育成が出来ないか考えているところ</p> <p>② 市町村によってバラツキはある。協定数を多く抱えてる市町村は、厳しい部分はあるが聞き取り調査の結果では、継続して取り組めるように地域計画の作成を急ぐとの回答であった</p> <p>③ (河本委員意見)</p>

(3) 多面的機能支払制度

【主な質疑・意見】	【応答など】
<p>① (河本委員) 事務負担軽減は、各府県の共通の課題、何か他県での先進的な取組は無いかな。関西広域連合の他府県に聞いてみても良いと思う。</p> <p>② 或いは企業に委託などのスケールメリット考えたら、広域連合と委託するとか、可能性もあるという気がする</p> <p>③ (中村委員長) 事務のサポートの方は、行政退職者等が多いが、民間の方が担えるのか</p> <p>④ 都市農村交流の方が担うことができれば、交流活動に繋がることについて</p> <p>⑤ 様式自体が使いやすいものにしていくのが先であり、国には要望を出していく必要がある</p> <p>⑥ 65歳から70歳前半はまだまだ働けるので、そこを上手く利用し活かしていけば良いと思う</p>	<p>① 今年度、事務の外部委託については検証中である。また、構成員に行政OBなど事務のスペシャリストが他組織の手助けが出来ないかも検討していきたい</p> <p>② (河本委員意見)</p> <p>③ 事業の趣旨を理解し、事務作業の確認ができれば担う事は可能</p> <p>④ (東出委員意見)</p> <p>⑤ (東出委員意見)</p> <p>⑥ (中村委員長意見)</p>

(4) 優良組織表彰

【主な質疑・意見】	【応答など】
<p>① 結果的に参加人数が多いところが選ばれているが、今後は少人数でキラリと光るところや小規模な集落をあえて1つ選ぶと言った視点があっても良いと思う</p> <p>② 表彰制度は、素晴らしい制度。ほとんどの県民がこの制度は知らないと思う。テレビとか新聞でそれぞれの地域を取材するなどして多くの人に目に留めて貰うのが大切であるのでプレスリリースをしていただきたい</p> <p>③ 表彰理由は表彰時にはぜひ説明していただきたい。どういうところが評価されるかが、参加者にもわかる。そういったことも含めて広く情報発信していただきたい</p> <p>④ 長く活動を持続する意味で重要。発信の仕方を工夫、今回、関西広域連合への掲載も検討してはどうか</p> <p>⑤ 本委員会の性格上、農林水産省の取り組みが中心となってしまうが環境省とか国土交通省の取り組みも絡められるような気はする。例えば、自然共生を視点を生物多様性とか生態系をキー</p>	<p>① (大石委員意見)</p> <p>② (河本委員意見)</p> <p>③ (中村委員長意見)</p> <p>④ (河本委員意見)</p> <p>⑤ (河本委員意見)</p>

ワードにした取組をアピールポイントに入れば、環境保全型農業に取り組んでいる地区を元気づけられると思う。

以上、R6年度奈良県農村活性化推進委員会の意見交換終了